

長雨及び台風に対する農作物等管理技術対策について

平成27年7月10日
埼玉県農林部

6月下旬以降は日本の南に梅雨前線が停滞し、曇雨天が多くなりました。
また、非常に強い勢力の台風11号は、今後進路を変えて本州に接近する可能性があります。

以下のとおり長雨及び台風に関する技術対策資料を作成しましたので、参考にしてください。

今後の台風の進路等の気象情報に留意し、早めの対応をお願いします。

露地畑共通事項

- 1 排水路や暗渠の点検、必要に応じて排水溝の整備を行い、ほ場の停滞水に備える。
- 2 冠水または浸水したほ場は、台風通過後に速やかに排水する。
- 3 台風通過後は、病虫害の発生を防ぐため、作物に付着した土砂などを洗い流すように薬剤防除を行う。

ハウス共通事項

- 1 フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れるなどして補強する。周辺に風で飛散する物がないよう整理する。
- 2 出入り口、天窓、サイドをしっかりと固定し、隙間からの風の吹込みを防ぐ。
- 3 停電、浸水による漏電等が想定されるので、不必要な電源は遮断しておく。
- 4 換気扇をまわしてハウス内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ。

水 稲

- 1 7月に入ってからいもち病感染好適日が続く、平地でも葉いもち病が見られ始めたので、水田を観察して初期の病斑を見つけたら速やかに防除を行う。また、追肥等による窒素過多に注意する。
- 2 台風の通過が予想される場合は、事前に可能な限り深水にし、強風による倒伏、葉ずれを防ぐ。
- 3 冠水した水田では、速やかに排水する。
- 4 台風通過後は、乾燥した風が吹くことが多いので、風が弱まるまで深水を保つ。

大豆

- 1 ほ場作業可能な時に、排水対策を実施する。
- 2 浸冠水した場合は、速やかに排水する。
- 3 倒伏した株は引き起こし、ほ場条件をみて中耕する。

野菜

<事前>

◎露地なす

- 1 降雨と日照不足により根が弱っているので、病果・変形果を除去し、草勢の維持・回復を図る。
- 2 枝の込み合っているところは、枝の整理や摘葉等により光線の透過と風通しを良くし、草勢の維持と病害虫の発生を抑える。
- 3 強風に備えて、V字仕立ての支柱や枝の誘引などについて点検・補強する。

◎ねぎ

黒斑病やべと病等の発生が見られるほ場もあるので、早期発見・適期防除に努める。

<台風通過後>

◎露地なす

- 1 台風通過後の停滞水に伴う根の活力低下により青枯病、半身萎凋病等が発生しやすいため、速やかな排水対策を徹底する。
- 2 台風通過後は、褐色腐敗病等が発生しやすいので速やかに薬剤防除を行う。
- 3 風雨等により確実に商品価値が低下するとみられる果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。

◎ねぎ

- 1 台風通過後の停滞水の温度上昇は、根腐れ及び軟腐病等の発病を助長するので、ポンプ等により排水するなど速やかな排水に努める。
- 2 収穫期に達しているほ場では、高温多湿による軟腐病の被害が拡大する前に、ほ場作業が可能になり次第、速やかに収穫・出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうので、厳選に努める。
- 3 生育が進み、土寄せのできるものは、倒伏防止のため早め実施する。ただし、湿害に伴って軟腐病や白絹病の発生がみられるほ場では、しばらく土寄せや追肥は避ける。
- 4 天候が回復次第、軟腐病・白絹病・小菌核腐敗病等を対象に薬剤防除を行う。

◎いちご

育苗ほへの浸冠水により炭疽病や疫病等の発生が懸念されるので、速やかに薬剤防除を行う。

◎やまといも

- 1 新いもの形成期になっており、浸冠水すると腐敗の発生や肥大不良になるので、停滞水の速やかな排水に努める。
- 2 風雨により葉渋病や炭疽病の発生が懸念されるので、台風通過後は速やかに薬剤防除を行う。

◎えだまめ

- 1 連作ほ場等で湿害に伴い白絹病の発生が予想される場合は、薬剤防除を行う。
- 2 草勢の回復を図るため、10a当たり窒素成分で1kg程度の追肥を行う。

◎ほうれんそう、こまつななど軟弱野菜

葉の損傷等が見られた場合には、速やかにべと病、白さび病等を対象に薬剤防除を行う。

果 樹

<事 前>

◎共通

- 1 滞水しそうなほ場においては、あらかじめ排水溝を設置しておく。
- 2 棚や支柱を補強し、上下の揺れを少なくする。
- 3 多目的防災網設置園では、強風により飛ばされないよう、結束部の点検を行う。
- 4 樹体の受光態勢を良好にするため、枝の混んでいるところを中心に、誘引、間引き、ピンチを行い、棚面を少しでも明るくする。

◎なし

主枝の先端や側枝は支柱や棚にしっかりと結びつけ落果を防止する。

◎すもも等（立木仕立て果樹）

強風による倒伏、枝折れ、落果、傷果等を防止するため、支柱などを設置し、主幹などをしっかり結束する。

<台風通過後>

◎共通

- 1 設置した排水溝を利用し、速やかにほ場の排水を図る。特に台風通過後の高温による停滞水の温度上昇は、根に悪影響を与えるので速やかに排水する。
- 2 葉・枝・果実の損傷が発生した場合は、収穫前日数・使用回数に留意して薬剤を散布する。

◎なし

台風通過後、強風により枝葉・果実が損傷した場合は、病害の発生を予防するため黒星病、輪紋病を対象に防除する。

◎ぶどう

台風通過後は、べと病を対象に殺菌剤の散布を行う。

◎すもも等（立木仕立て果樹）

- 1 台風通過後は、病害の発生を防止するため殺菌剤を散布する。
- 2 落果した果実は、速やかに園外に搬出する。

花植木

<事前>

- 1 排水対策を行うとともに、フラワーネット等の点検・補強を行う。
- 2 施設栽培では、多湿にならないように空気の循環や換気を行う。
- 3 日照不足による軟弱徒長を防ぐため、過度の施肥は避ける。また曇雨天が続いた後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じて遮光資材を開閉する。

<台風通過後>

- 1 倒伏した株は引き起こして株元を軽く押さえ、茎葉等の曲がり防止するとともに破損した茎葉は除去し、適切な薬剤散布等により病害の発生防止に努める。
- 2 浸冠水した施設、資材等は必要に応じ消毒を行う。

茶

- 1 降雨による湿度上昇などにより炭疽病が発生しやすくなるので、常発するほ場を中心に薬剤防除を行う。
- 2 台風の強風などにより枝葉の損傷を受けた場合は、炭疽病の発生が懸念されるので、台風通過後薬剤散布を行う。

◎農薬は最終有効年月までに、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、使用してください。農薬の最新情報については、農産物安全課のホームページでご確認ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/arfdnouyakutouroukuhenkou.html>